



JA兵庫みらい
営農経済部 あぐり創生課
TEL 0790-47-1282
FAX 0790-47-1674

2026. 2月号

園芸 【たまねぎの追肥と防除について】

家庭菜園で人気のたまねぎは、冬から春にかけての管理を怠ると収量が低下する場合があります。今回は、収量増加に向けた追肥と病気の対策についてご紹介します。

【追肥】

たまねぎは作型により追肥時期が異なるため、以下を参考にしてください。追肥には「野菜専用化成」などを使用しましょう。

○ 早生（わせ）品種：1回目→1月上旬～1月中旬 ・ 2回目→2月上旬～中旬

○ 中晩生（なかおくて）品種： 1回目→2月上旬～中旬 2回目→3月上旬～中旬（止め肥）

また、追肥のポイントとしては、

○ 条間に施肥し、その後、土寄せをして肥料が葉に触れないようにしましょう。

○ 追肥後は、晴れた日の日中に水やりをすると肥料の吸収が促進されます。

【病気の対策】



たまねぎの代表的な病気に「べと病」があります。一度感染すると同じ畑で感染を繰り返すやっかいな病気です。主な症状は、葉がわん曲し、ツヤがなくなります。さらに、症状が進行すると暗紫色のカビが広がり、株全体が枯れてしまいます。

発生時期（秋まき栽培の場合）は、10～12月の圃場で卵孢子（病原菌が作る特殊な孢子）から感染すると、しばらく潜伏して、翌年の2～3月に症状が現れます。これを「越年罹病株」といいます。また、多発条件（早春の温暖で多湿な環境）になると、感染と発病を繰り返しやすいため対策が必要となります。

日頃の予防と対策は、①「越年罹病株」を見つけ次第取り除くこと、②排水の悪い圃場は過湿にならないようにすること、が大切です。そして、農薬を使用する場合は、次のように使い分けてください。



○ 病気の発生を抑える（11月～1月頃）→ ダコニール1000、ランマンフロアブル

○ 発生初期以降の散布（2月上旬～5月上旬頃）→ プロポーズ顆粒水和剤、シグナムWDG、リドミルゴールドMZ、

なお、たまねぎは農薬が付着しにくいので、付着性、浸透性、固着性を向上させるため展着剤を併用してください。（※記載の農薬は一例です。農薬を使用する際は、ラベルをよく読み、希釈倍数、散布時期、散布量を厳守しましょう）

【堆肥系の土作り資材は早めにすき込みをしよう！】

寒さの厳しい季節になりました。冬野菜の収穫も終盤を迎え、春に植える野菜の準備をする季節になってきました。

鶏糞や牛糞堆肥などは、苗を植える直前にすき込むとガスの影響で活着不良を起こす場合があります。特に春先など

気温の低い時期は分解に時間がかかる（最低一ヶ月）ので、早めに散布して2回以上は耕耘作業を行いましょう。

水 稲 【ジャンボタニシからイネを守ろう】

近年、ジャンボタニシの食害による収量減が問題となっています。兵庫みらい管内でも生息範囲が拡大し、相談を受けることも増えてきました。生態・対策方法を理解し、地域ぐるみでの取組が必要です。

● ジャンボタニシの基礎知識

寿命は2年程で、年間20～30回産卵し1頭あたりの年間総産卵数は約2～8千にもなります。

2～3週間で孵化し、軟らかい植物や魚の死骸等を食べて成長します。孵化したジャンボタニシは、水中にあるものしか食べることが出来ず、田植え直後の水稻苗が食害されます。

★主な対策方法として、3点ご紹介します。

● 耕種的防除

ジャンボタニシは水中でないと摂食できないため、水田を浅水（水深1センチ以下）に保つと確実に被害を低減できます。水の管理が難しく、凸凹のあるほ場では、深い場所に貝が集まるため、その部分の水稻が集中的に食害されます。苗が小さいうちを除いて、本来水稻はあまり好みません。そのため、苗が成長すると食害は少なくなります。結果、水稻への被害は移植後約3週間程度であり、この間の浅水管理の徹底と、ほ場の均平化がポイントになります。

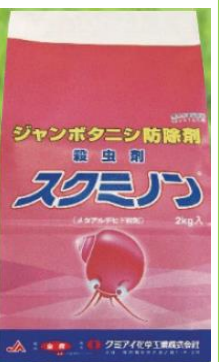
● 物理的防除

5月下旬から9月上旬は、週に1回程度水田や用排水路を見回り、卵塊を押しつぶすなど殺卵して下さい。卵塊は直径2mm程の卵の塊で、濃いピンク色が特徴です。ピンク色の間は水中に落とすだけでも殺卵できます。2cm以上の貝は取り除きます。中干し等の落水時は、水の溜まっているところに多くの貝が集まるので、まとめて捕殺しやすくなります。※貝には寄生虫がいる可能性がありますので、直接触らず、必ずゴム手袋などを着用しましょう。

他にも、水田の取水口に左写真のような工夫をし、ほ場に入り込ませないことも大切です。

● 科学的（薬剤）防除

本田施用としては、適用のある農薬（スクミノン等）を食べさせる方法があります。食べさせるタイプの薬剤は、水稻移植後の湛水状態で散布します。農薬散布後、1週間で粒が崩壊します。ジャンボタニシは崩壊した粒は食べないので、必要に応じて追加散布しましょう。農薬を使用する場合は、事前に農薬ラベルの注意事項をよく確認してから使用してください。広まってしまったジャンボタニシを根絶することは難しく、上記の対策方法等により、ジャンボタニシを増やさない、持ち込まない、持ち込ませないを心がけましょう。



問 い 合 わ せ 先

加西営農生活センター
TEL0790-47-1286

三木営農生活センター
TEL0794-82-6150

小野営農生活センター
TEL0794-63-6905